

クニミネ工業株式会社

2021年3月期
決算説明会

2021年6月10日
東証一部

証券コード：5388

当社事業目的・ビジネスモデル

『資源を科学して未来のニーズを創造、産業の発展、社会インフラ整備に貢献する』

当社グループは、貴重な地下資源である「ベントナイト」の採掘・製造・販売を中心事業に、アグリ事業、化成品事業、ライフサイエンス事業の4事業を展開しております。未来のニーズを創造することで、お客様に新しい価値を提供し続けています。

■ ベントナイト事業

- モンモリロナイトを主成分とする粘土鉱物を加工し、膨潤性・増粘性などの特性を活用して、様々な事業分野に展開

■ 鋳物分野

『耐熱特性に応じた製品、体系化した技術を通じて、素形材産業にソリューションを提供する』

- 鋳物用成型砂の粘結材

■ 土木分野

『土と水にイノベーションを起こし、地球環境問題に貢献する』

- 掘削地盤の壁面保護や地盤との隙間充填材

■ ペット分野

『ペットとの暮らしに快適さを与え、社会に癒しと笑顔を創造する』

- 猫用トイレ砂

■ アグリ事業

『農薬粒剤の生産活動を通じて、食の安定供給に貢献する』

- 農薬粒剤の受託加工、農薬向け原材料

■ 化成品事業

『粘土の未知なる魅力を発見し、粘土の力で世界を変える』

- 高機能品(精製ベントナイト、合成スメクタイト等)

■ ライフサイエンス事業

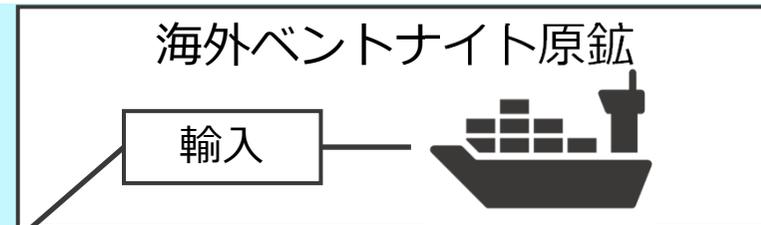
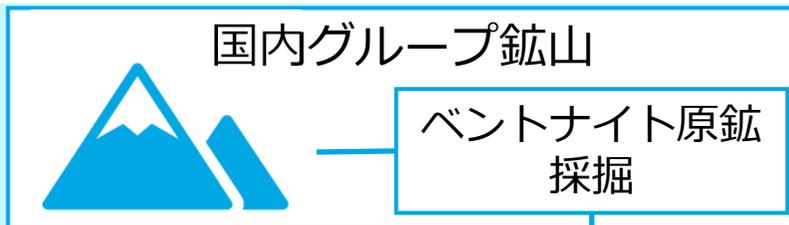
『生命を事業領域と捉えて、粘土の可能性を追求する』

- 畜産向け飼料添加物

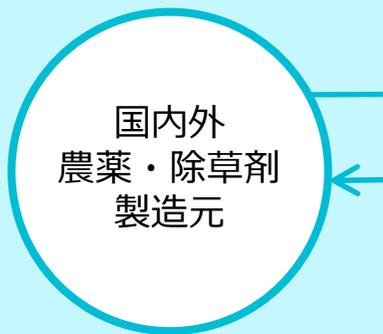
当社ビジネスモデル

ベントナイトの採掘、加工、販売でオンリーワン企業を目指す

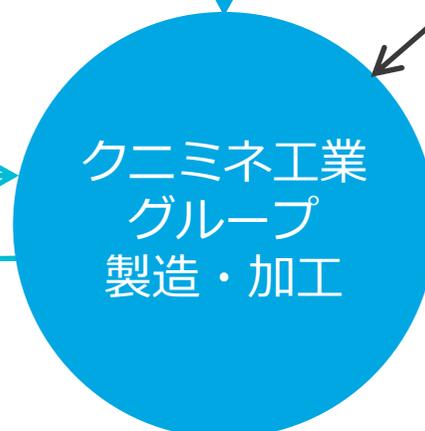
ベントナイト
採掘



アグリ
事業

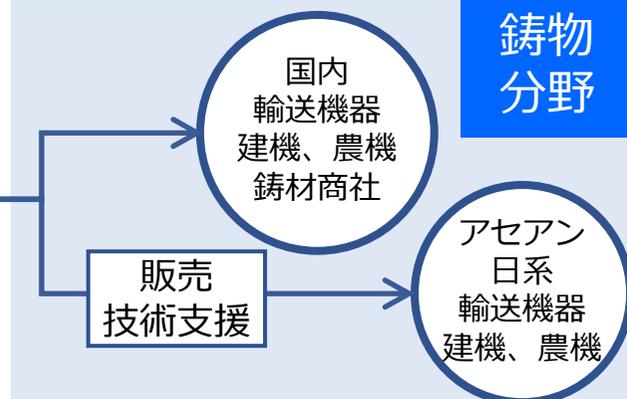


原体支給
受託加工



販売

ベントナイト事業

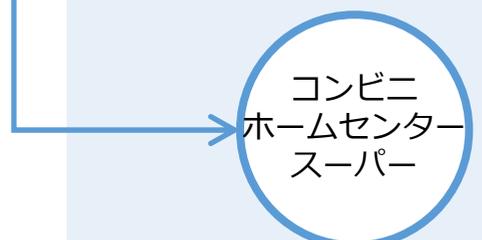
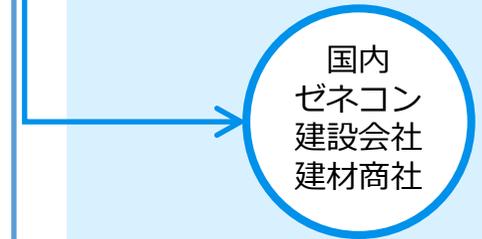


鋳物
分野

土木
分野

ペット
分野

販売



1 業績トピックス

2 2021年3月期 決算概要

3 2022年3月期 通期見通し

4 中期経営計画 振り返り

5 中期経営計画策定にあたっての考え方

6 新中期経営計画(2022年3月期-2024年3月期)

7 社会・環境への取組み



グループ全体 ⇒ 減収増益
ベントナイト事業は復興関連需要が増、化成品事業は減



復興関連(土木) ⇒ 増収↑(前期比24%増)
一般土木は減少するが、復興関連需要が増益に寄与

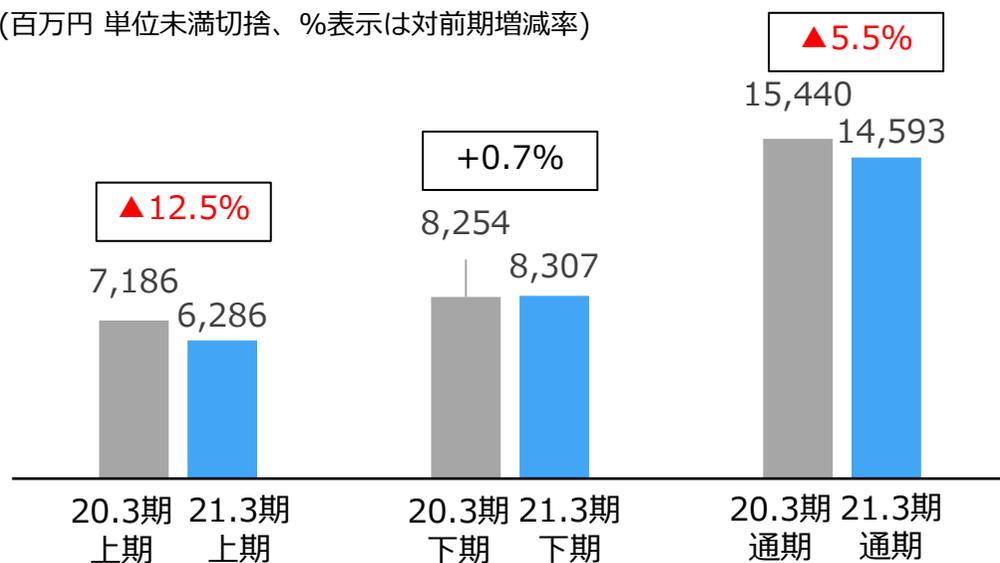


鋳物分野 ⇒ 減収↘(前期比14%減)
コロナ禍による自動車生産台数減が影響

■ 業績への影響

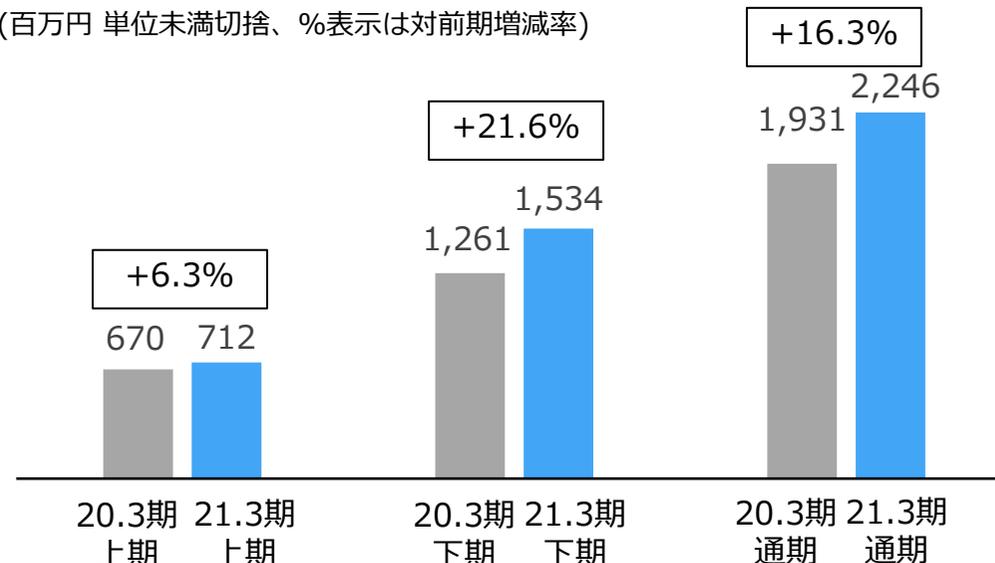
売上高推移

(百万円 単位未満切捨、%表示は対前期増減率)



営業利益推移

(百万円 単位未満切捨、%表示は対前期増減率)



- 上期は自動車関連不振の影響等により減収
- 下期は需要が回復し前年並みの売上高を確保
→業績面の影響は落ち着きつつある

- 復興関連(土木)、アグリ事業が好調により増益
→一層の高収益体質化に努める

1 業績トピックス

2 2021年3月期 決算概要

3 2022年3月期 通期見通し

4 中期経営計画 振り返り

5 中期経営計画策定にあたっての考え方

6 新中期経営計画(2022年3月期-2024年3月期)

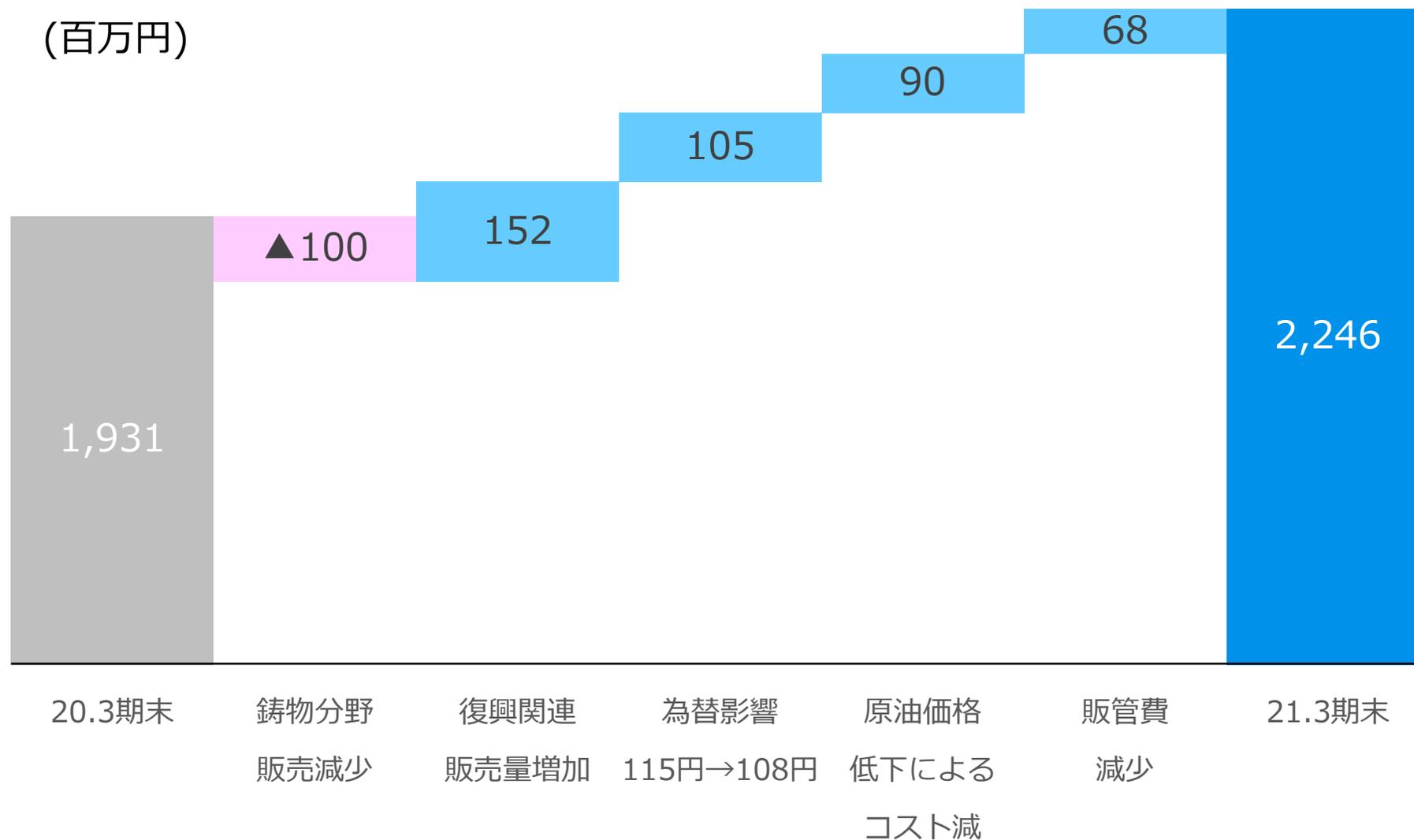
7 社会・環境への取組み

減収増益、当期純利益は過去最高益を更新

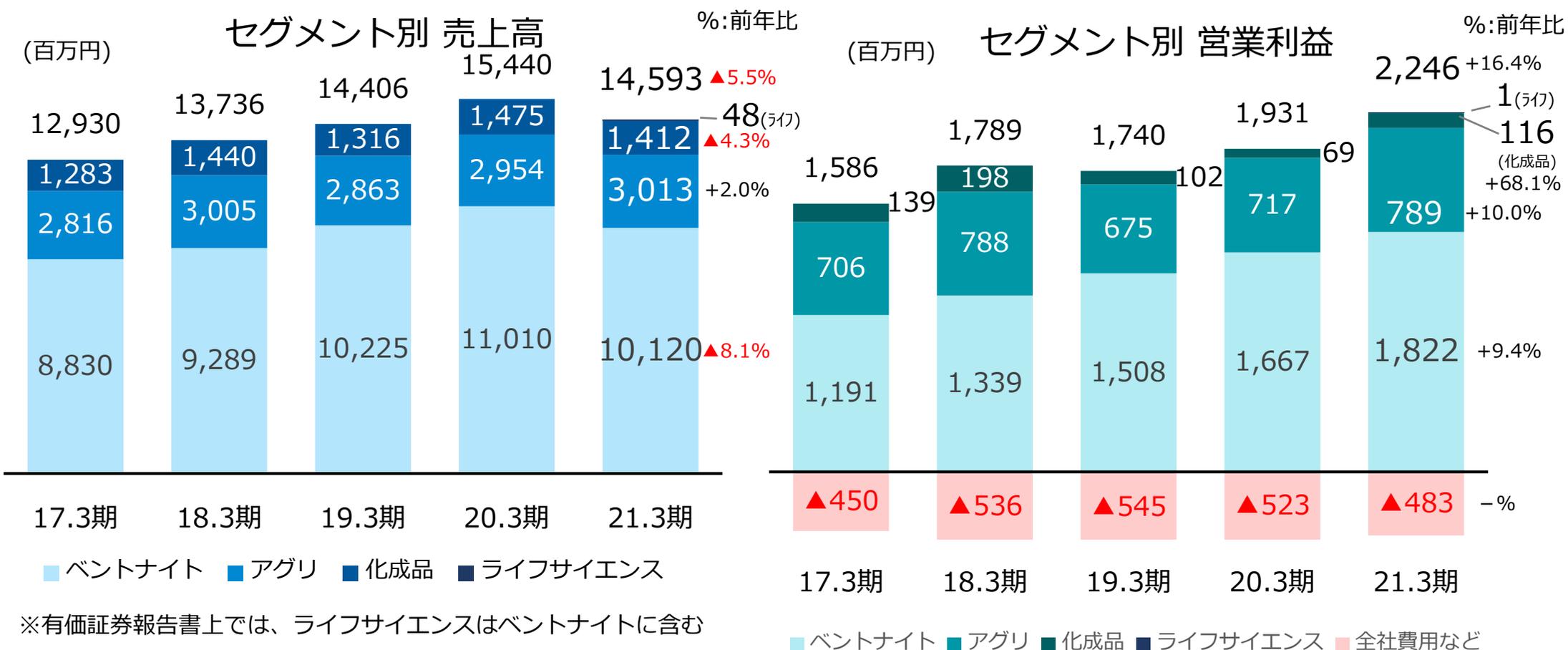
(百万円)	2020年 3月期	2021年 3月期(実績)	前期比	2021年 3月期 (※修正計画)	計画比
売上高	15,440	14,593	▲5.5%	14,419	+1.2%
営業利益	1,931	2,246	+16.3%	2,176	+3.3%
経常利益	2,094	2,409	+15.0%	2,276	+5.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,648	1,681	+2.0%	1,577	+6.6%

※修正計画は、2021.1.21開示の業績予想

2021年3月期 営業利益増減要因(対前年)

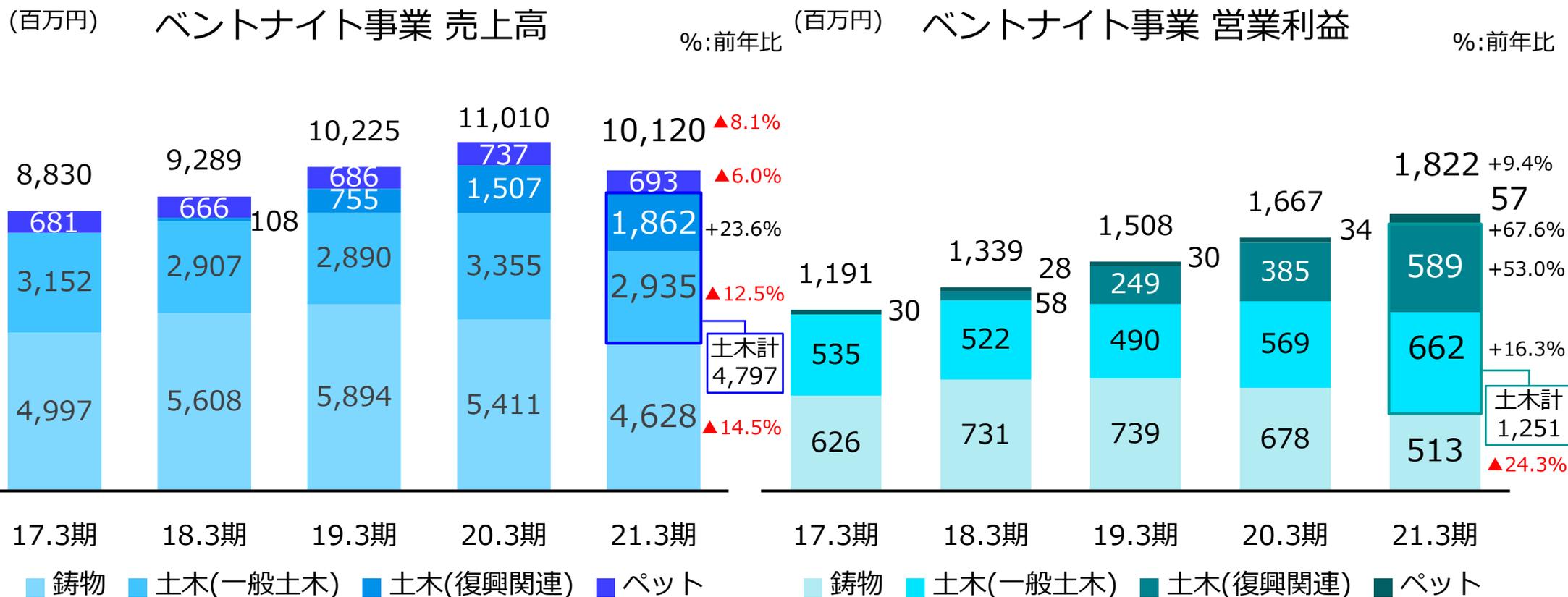


セグメント別業績（通期）



- ベントナイト…新型コロナウイルスの影響により減収増益
 - ・ 鋳物…上期の自動車関連不振により減収減益
 - ・ 土木…復興関連が好調維持により減収増益
- アグリ…生產品目の見直しにより増収増益
- 化成品…下期より復調、減価償却費減に伴い減収増益

ベントナイト事業 売上 営業利益 内訳



- 鋳物…第一四半期の自動車関連の不振により減収減益
- 土木…一般土木が減少するも、復興関連向けが増加し減収増益 (五輪開催想定による工事の減少)

2021年3月期 貸借対照表の概要

2020年3月期末
総資産 21,918百万円

+2,397
百万円

2021年3月期末
総資産 24,315百万円

(百万円)

	2,522	流動負債
	929	固定負債
流動資産		
14,067		
	純資産※1	
	18,465	
固定資産		
7,850		
	自己資本比率	
	82.6%	

※1：非支配株主持分は363百万円

(百万円)

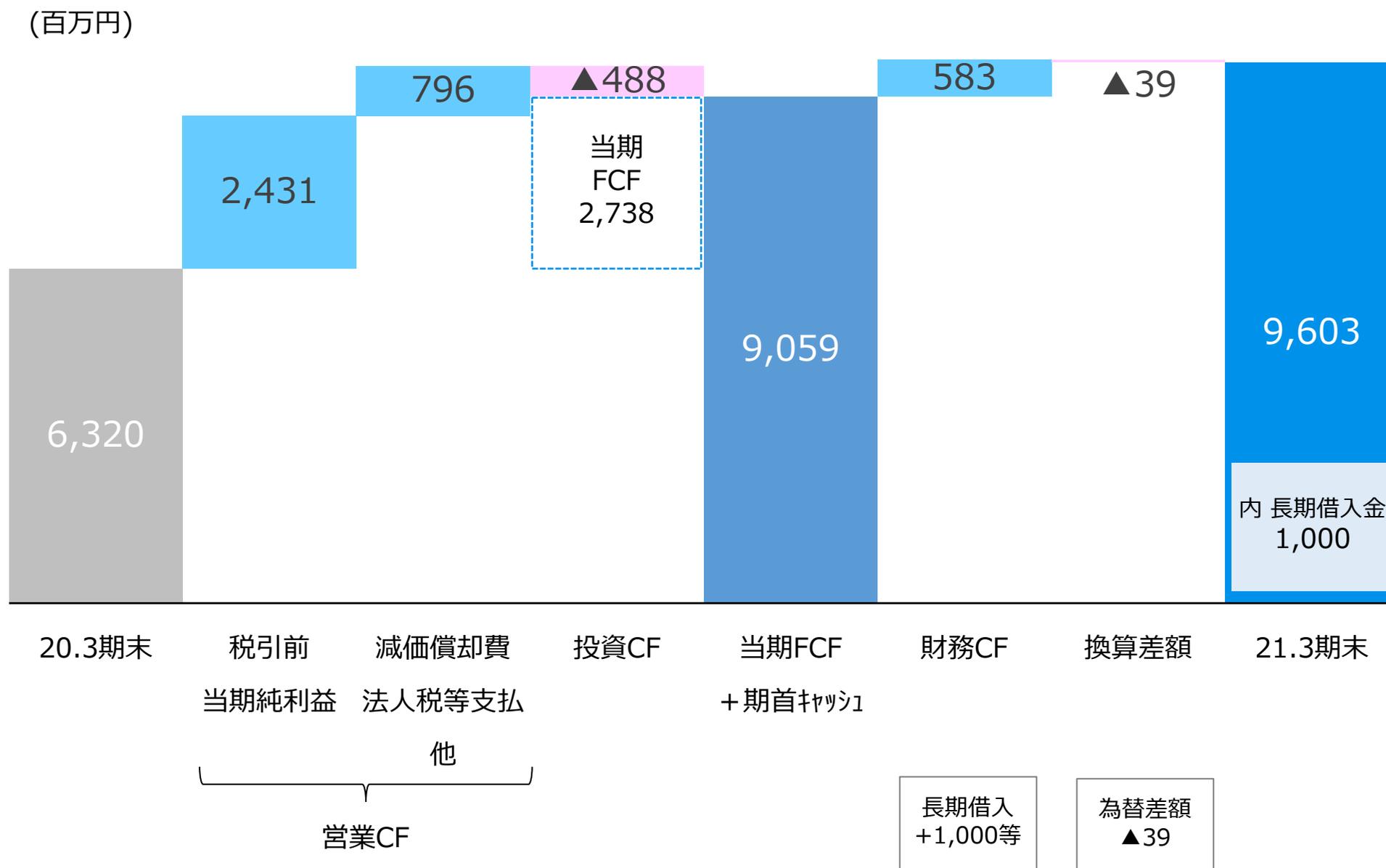
	2,613	+91	流動負債
	1,898	+969	固定負債
流動資産			
16,453			
+2,386			
	純資産※2		
	19,803		
	+1,338		
固定資産			
7,862			
+12			
	自己資本比率		
	79.9%		
	(▲2.7pt)		

流動資産：
現金預金+3,176

固定負債：
長期借入金+1,000

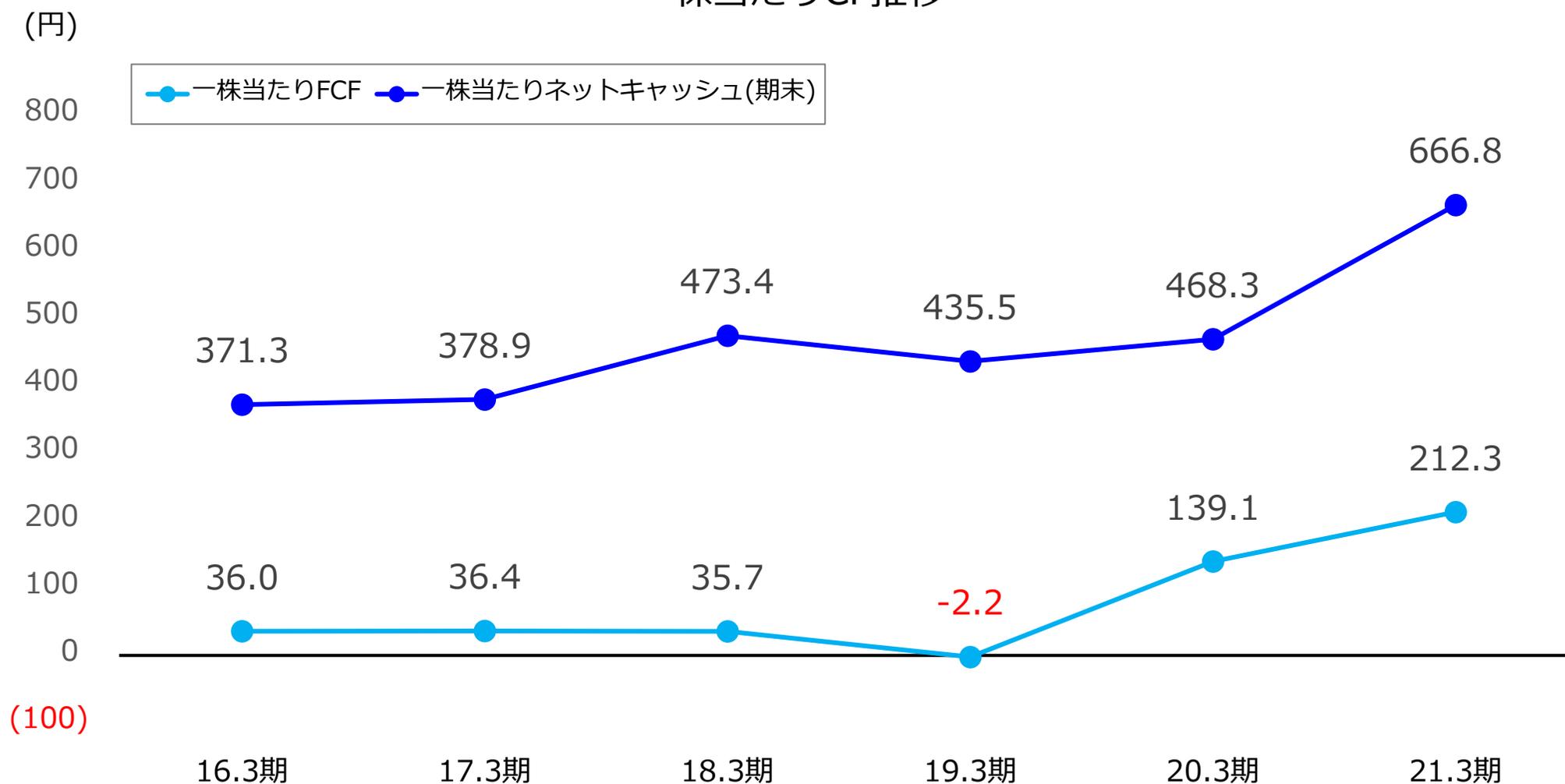
※2：非支配株主持分は383百万円

2021年3月期 キャッシュフロー要約



一株当たりキャッシュフロー

一株当たりCF推移



1 業績トピックス

2 2021年3月期 決算概要

3 2022年3月期 通期見通し

4 中期経営計画 振り返り

5 中期経営計画策定にあたっての考え方

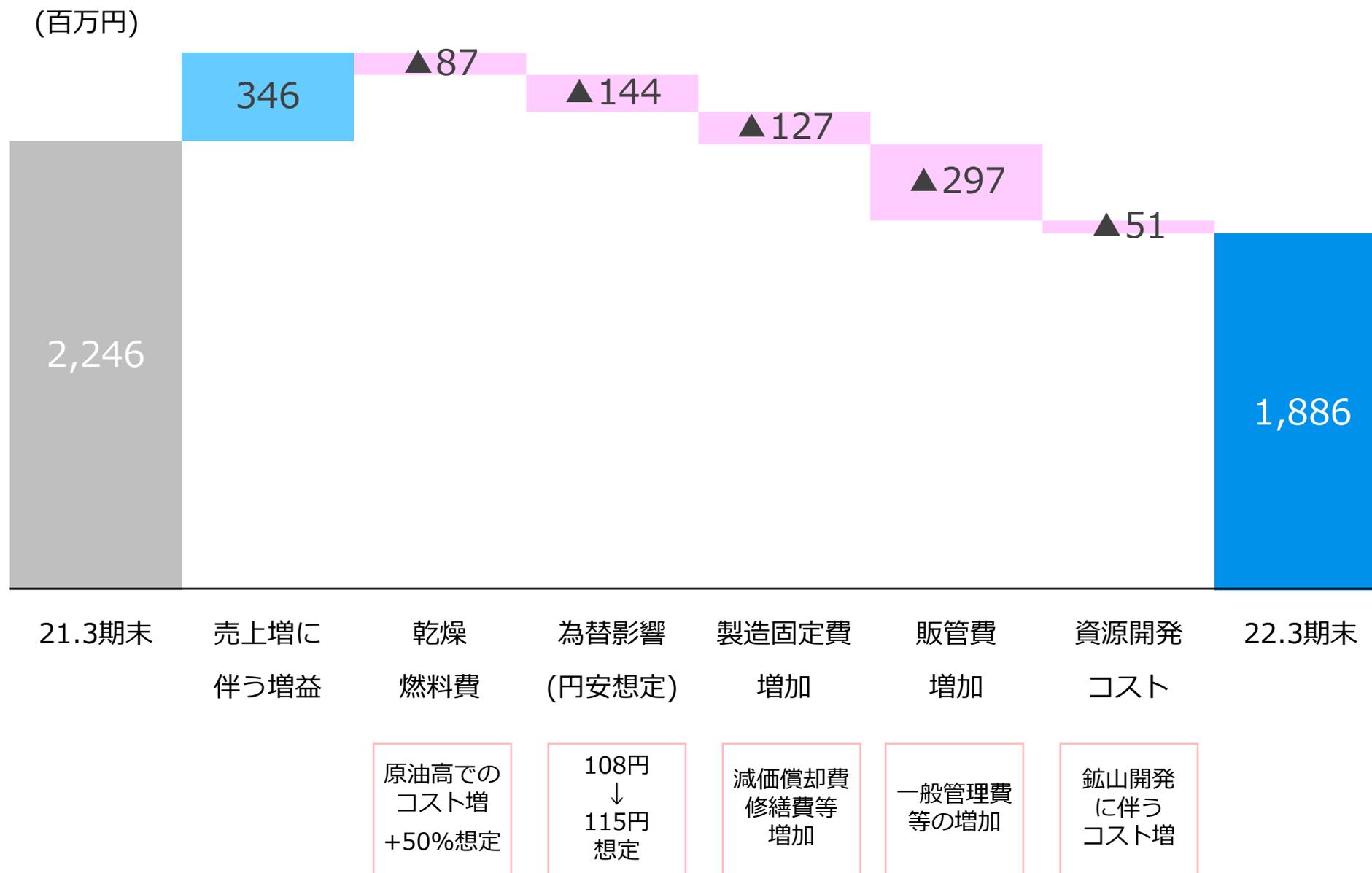
6 新中期経営計画(2022年3月期-2024年3月期)

7 社会・環境への取組み

増収減益、更なる成長に向けた固定費増等により減益見込

(百万円)	2021年 3月期	2022年 3月期(予想)	前期比
売上高	14,593	15,893	+8.9%
営業利益	2,246	1,886	▲16.0%
経常利益	2,409	1,948	▲19.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,681	1,343	▲20.1%

21.3期→22.3期 営業利益増減要因



セグメント別業績予想 (通期)

(百万円) セグメント別 売上高 %:前年比 (百万円)



■ ベントナイト ■ アグリ ■ 化成品 ■ ライフサイエンス

※有価証券報告書上では、ライフサイエンスはベントナイトに含む

セグメント別 営業利益 %:前年比



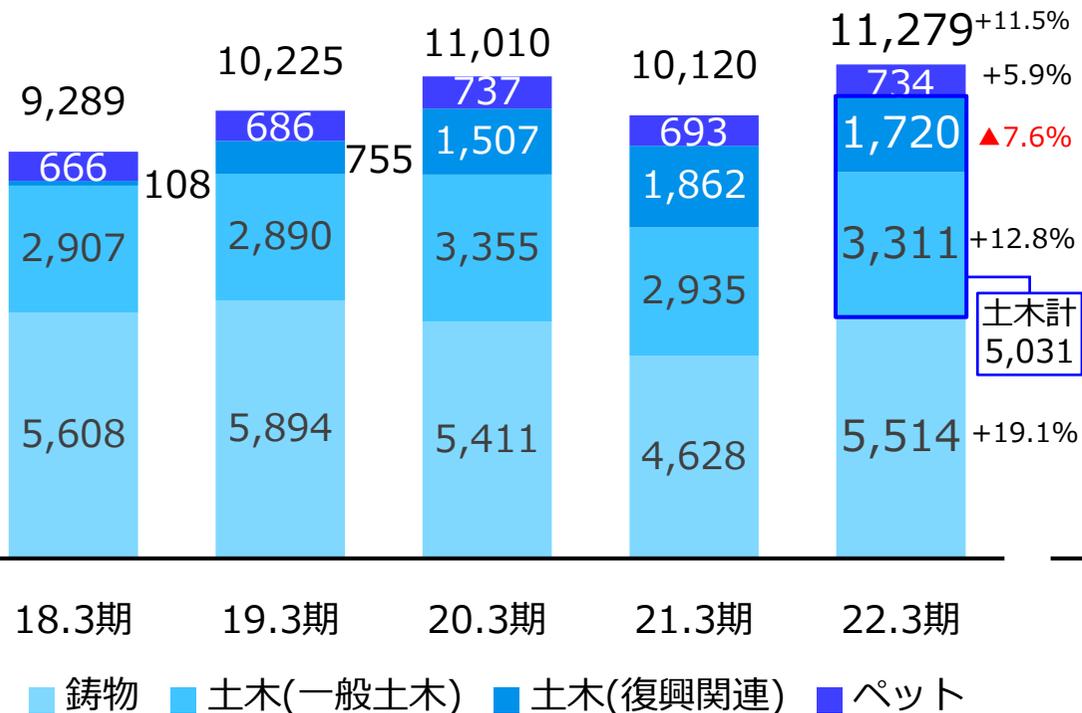
■ ベントナイト ■ アグリ ■ 化成品 ■ ライフサイエンス ■ 全社費用など

- ベントナイト…原油高、原料高、未来投資(資源探査、採掘技術開発等)により、利益押し下げ
- アグリ…前期並みの利益を維持
- 化成品…ファインケミカル伸長も、製造設備新設による減価償却費増により増収減益
- ライフサイエンス…見通しについては3 1 ページに詳細記載

ベントナイト事業 業績予想 内訳

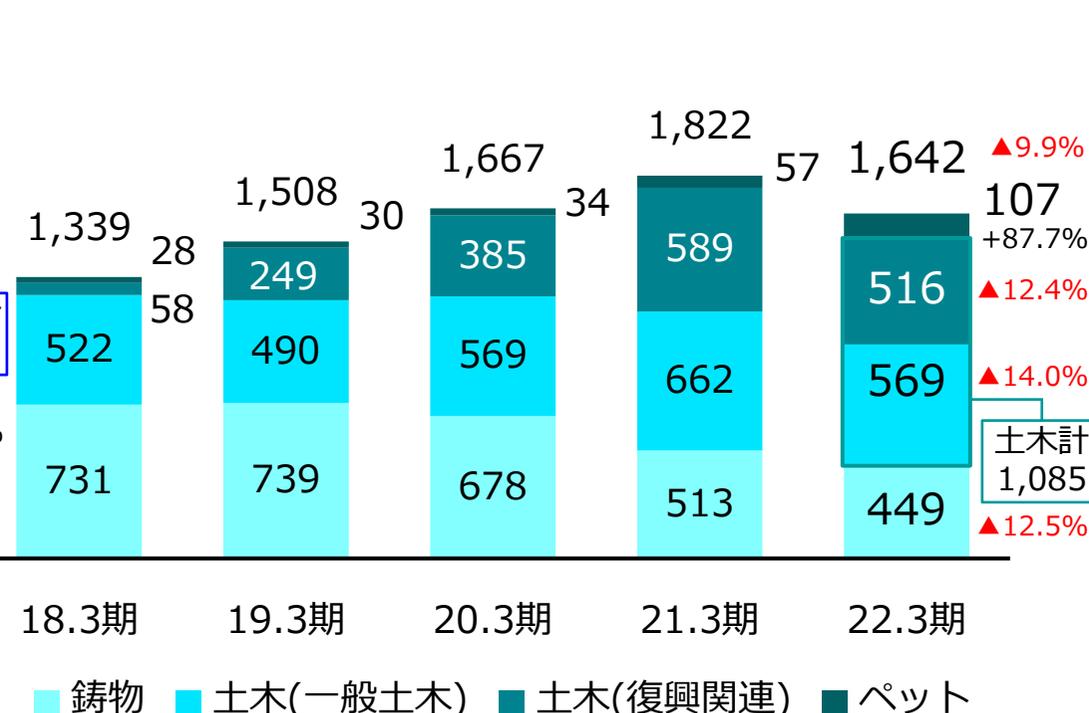
ベントナイト事業 売上高

(百万円)
%:前年比



ベントナイト事業 営業利益

(百万円)
%:前年比



- 鋳物…自動車関連復調の見通しも、原油高、原料高を想定、減益を見込む
- 土木…一般土木復調見通しも、原油高、原料高を想定、減益を見込む
- ペット…Eコマースを活用したブランディング戦略により増益を見込む

1 業績トピックス

2 2021年3月期 決算概要

3 2022年3月期 通期見通し

4 中期経営計画 振り返り

5 中期経営計画策定にあたっての考え方

6 新中期経営計画(2022年3月期-2024年3月期)

7 社会・環境への取組み

(百万円)	2019.3月期	2020.3月期	2021.3月期	最終年度目標	達成率 (対21.3期)
売上高	14,406	15,440	14,593	16,422	88.7%
営業利益	1,740	1,931	2,246	2,253	99.7%

基本戦略

海外市場の展開・拡大

- ・高品質原鉱の安定調達（国内市場向け）

国内基盤事業

- ・インフラ整備事業、復興事業の取り込みに注力
- ・IT化による生産性向上
- ・新鉱区開発、採掘技術開発

資源の利用高度化

- ・既存技術を応用した新製品開発
- ・産学官連携による研究
- ・オンリーワン製品

3年間の取組み状況と課題

基本戦略	3年間の取組み（金額：百万円）			課題
	2019.3期	2020.3期	2021.3期	
1. 海外市場の展開・拡大／高品質原鉱調達				<ul style="list-style-type: none"> クニミネタイランド売上高、コロナ影響により、21.3期は売上減。新中計期間にて反転を狙う。
タイ売上高	479	496	422	
2. 国内基盤事業の拡充				<ul style="list-style-type: none"> 復興関連向け、23.3期終了予定。次なる事業の柱を模索。 アグリ事業、省人化投資によって営業利益率向上。
復興関連売上高	755	1,507	1,862	
アグリ事業部 営業利益率	23.6%	24.3%	26.2%	
3. 資源の利用高度化				<ul style="list-style-type: none"> クニピア売上高、コロナ影響により、21.3期は売上減。新中計期間にて反転を狙う。 ライフサイエンス部新設。新用途、新規分野へ取り組み。今後、土壌改良・水質浄化・動物医薬分野への展開を狙う。
クニピア売上高	568	729	694	
ライフサイエンス 売上高	0	37	48	

※ライフサイエンスは2021年3月期より事業部として設立

1 業績トピックス

2 2021年3月期 決算概要

3 2022年3月期 通期見通し

4 中期経営計画 振り返り

5 中期経営計画策定にあたっての考え方

6 新中期経営計画(2022年3月期-2024年3月期)

7 社会・環境への取組み

中期経営計画策定にあたっての考え方

従来の成長モデル ⇒ 人口増加を背景とした経済成長
大量生産、大量消費

地球環境の制約

- 産業革命以来、大量・高速・大型
⇒しかし、地球の資源は無限ではない
⇒しかし、地球の自浄作用は無限ではない

出生数減少、社会の高齢化

- 社会保障充実の要求
⇒不況毎に経済対策(対GDP比債務増)
⇒デフレ経済下の需要喚起(金融緩和)



経済活動、経済対策の結果、
次世代に多大なツケ(負担)を残す

環境、社会の治療・治癒を目的
とする静脈産業の必要性



資源（粘土）を科学して、静脈産業に貢献する

CO2排出削減

- 再生可能エネルギー関連（土木）
⇒地熱発電開発(ボーリング掘削)
⇒原子力発電
(低レベル放射性廃棄物処理)

国土強靱化、循環型社会

- 国土強靱化（土木）
⇒復興関連、広域災害対策
- 循環型社会（化成品／ガスバリア）
⇒フードロス削減、脱プラスチック

食糧問題対策

- 食料生産効率化を支援
⇒畜産・養魚の効率化（ライフ）
⇒高機能除草剤
(アグリ：製剤技術高度化)

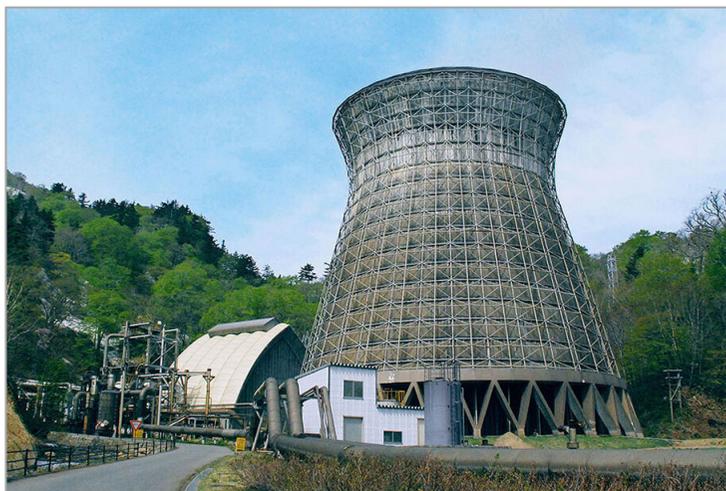
■ 地熱発電



地熱発電は、CO2をほとんど出さずにエネルギーを作り出すことができるクリーンな発電方法です。

地上で降った雨は、地下の高温マグマ層まで浸透すると、マグマの熱で蒸気になって地下1,000m～3,000m付近に溜まります。井戸などを掘ってこの高温の蒸気でタービンを回して発電するのが、地熱発電の一般的なしくみです。

地下1,000mを超える井戸などを掘削する際に、ベントナイトを活用して掘削孔の壁に泥壁を形成することで、崩壊を防止しています。



■ 低レベル放射性廃棄物処理

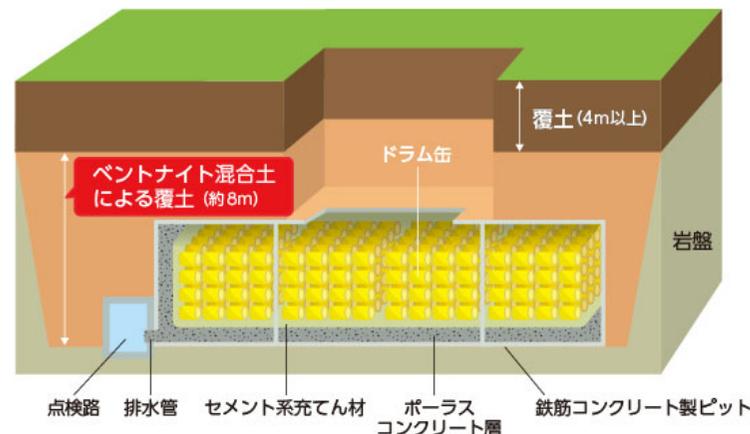


原子力発電などで発生した低レベル放射性廃棄物の処理、処分は、核燃料サイクルの中で重要な役割を担っているとともに、老朽化した原子力発電所の解体などにおいても必要とされています。

ベントナイトはこれらの処分において、廃棄物からの放射性物質の漏えいを防ぐための遮水性亀裂などを充填する自己シール性など様々な性能が期待でき、充填材、緩衝材の候補材料となっています。

当社では30年以上前から、この分野において、試験材料の提供や受託試験研究などを続けております。

- 浅地中ピット処分イメージ
(資源エネルギー省ホームページより)



■ ガスバリア素材の開発



産業技術総合研究所と共同開発した特殊な粘土鉱物の薄膜シートでは、アルミ蒸着レベルを上回るガスバリア性を実現いたしました。

ガスバリア材料の市場は、フードロス削減や、脱プラスチックの社会的ニーズの高まりから、食品包装や医薬品などで広がりを見せており、さらにハイバリア領域においては、電子材料（基板やLCD、有機ELなど）の保護・封止技術など様々な用途への応用が可能と考えられています。

● ガスバリア素材イメージ



■ 飼料添加物への活用



ベントナイトにはカビ毒吸着などの効果が確認されており、家畜の飼料添加物として活用することで、家畜および環境への負荷低減が期待されています。

家畜の飼料には病気予防・成長促進のため、飼料に銅や亜鉛などの金属が添加されますが、多量に添加された場合金属成分が高濃度で排出され、土壌の汚染が懸念されます。

環境負荷低減に向け、金属成分から生命にやさしいベントナイトへの置き換えを進めています。



1 業績トピックス

2 2021年3月期 決算概要

3 2022年3月期 通期見通し

4 中期経営計画 振り返り

5 中期経営計画策定にあたっての考え方

6 **新中期経営計画**(2022年3月期-2024年3月期)

7 社会・環境への取組み

基本戦略
<ul style="list-style-type: none"> ● 福島復興関連・脱炭素関連・静脈産業への取組み <ul style="list-style-type: none"> ・復興関連事業 / 低レベル放射性廃棄物処理 ・インフラ整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ● 資源の高度利用化 <ul style="list-style-type: none"> ・化成品(ガスバリア材料他) ・ライフサイエンス(食品添加物)
<ul style="list-style-type: none"> ● 海外市場展開・海外鉱探査 <ul style="list-style-type: none"> ・アセアン市場(鋳物 / 化成品) ・海外鉱活用(米国・中国以外)
<ul style="list-style-type: none"> ● 企業体質強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ESG経営/DX推進 ・新鉱区開発、採掘技術開発



鋳物
<ul style="list-style-type: none"> ● コストダウンによる国内シェア拡大 ● 海外市場開拓

土木
<ul style="list-style-type: none"> ● 拡大する需要の取込み <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地熱発電/国内インフラ(リニア新幹線等) ▶ 静脈産業(低レベル放射性廃棄物処理等)

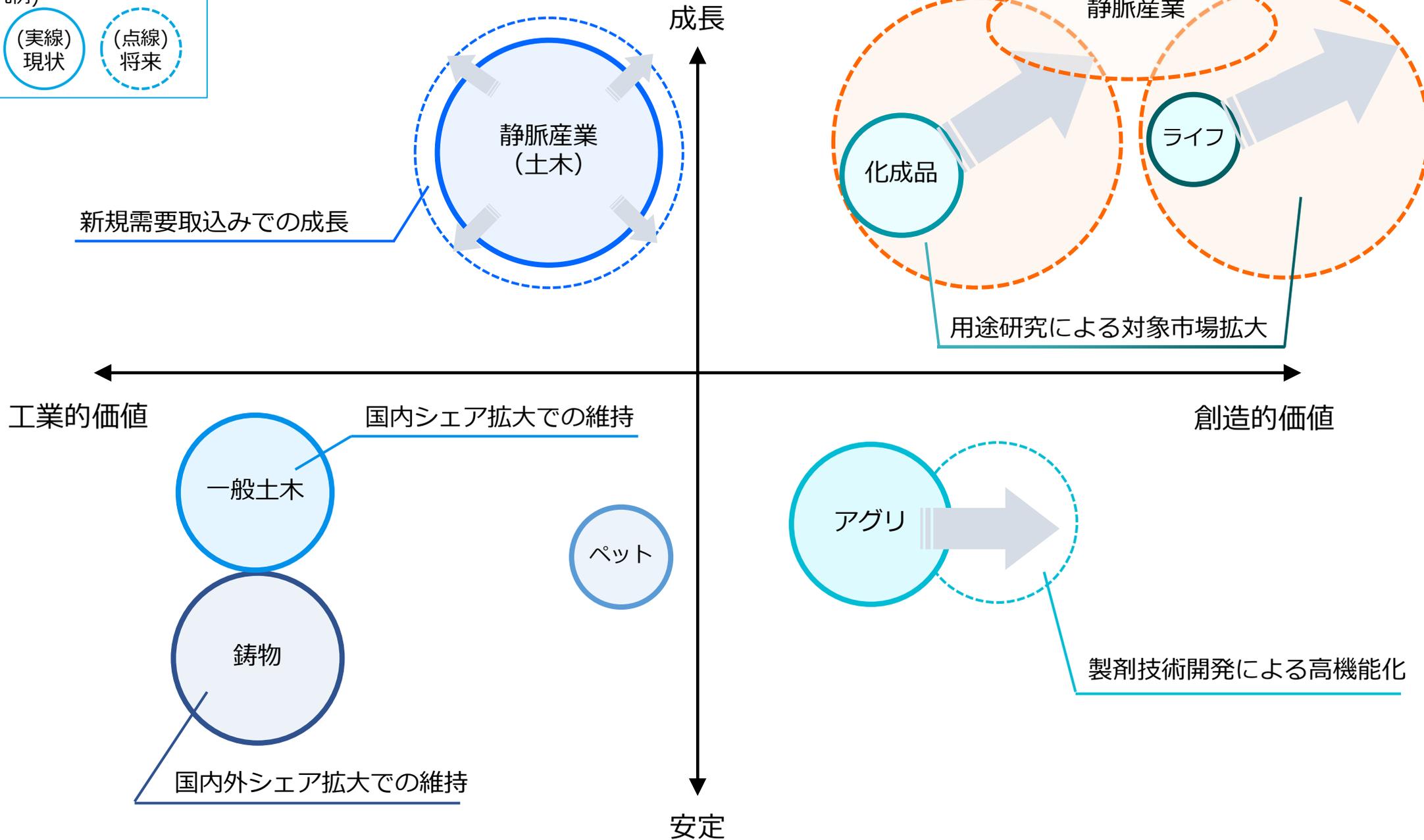
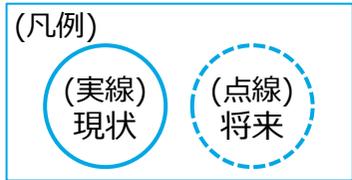
アグリ
<ul style="list-style-type: none"> ● スマート農業への対応 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 製剤技術高度化

化成品
<ul style="list-style-type: none"> ● ファインケミカル分野の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 国内外/化粧品等 ● 研究開発の継続/加速

ライフサイエンス
<ul style="list-style-type: none"> ● 飼料分野の拡大 ● 動物医療分野での用途研究

全社
<ul style="list-style-type: none"> ● ESG経営方針明確化 ● カーボンニュートラル推進

事業ポートフォリオ



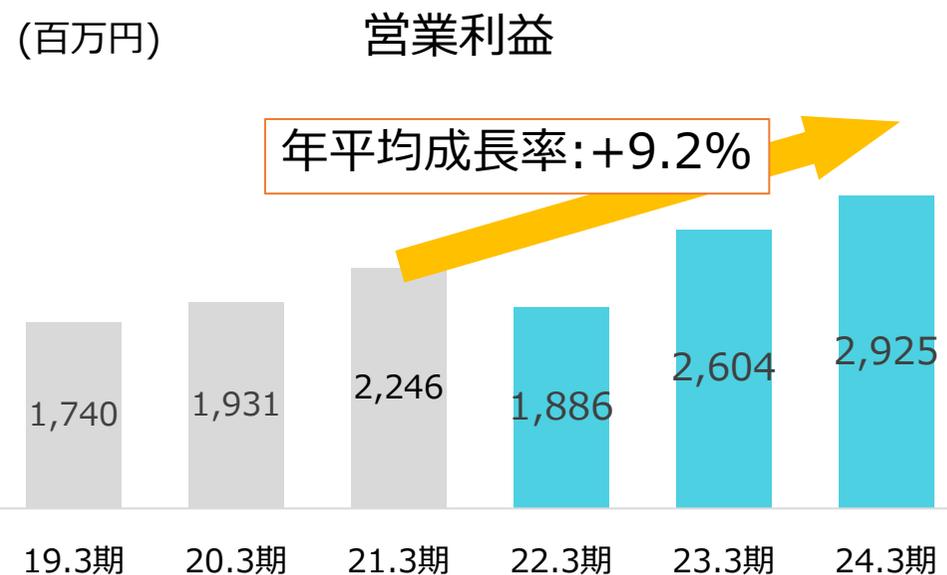
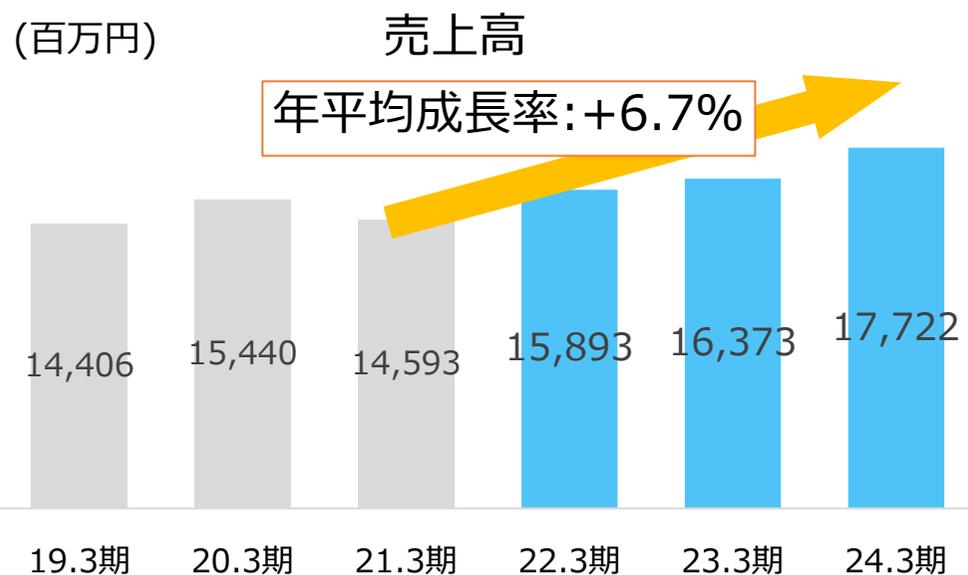
経営数値目標

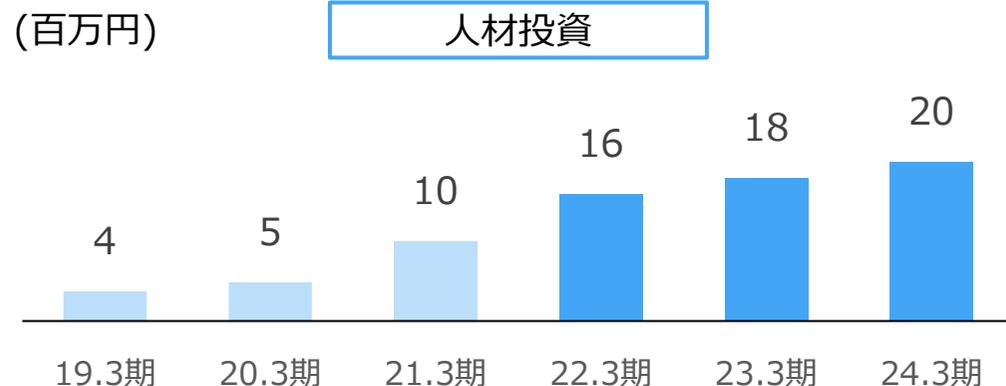
(金額：百万円)

	2021年3月期 実績
売上高	14,593
営業利益	2,246
研究開発投資	796 ^{※1}
設備投資	3,504 ^{※1}
ROE	9%

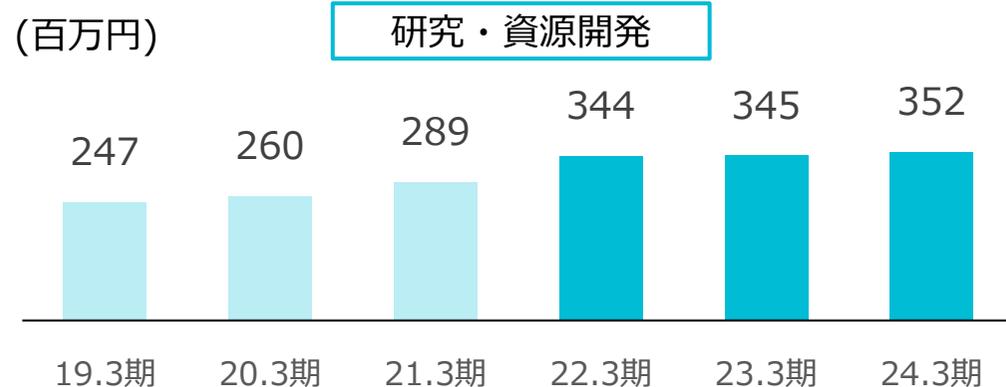
2024年3月期 目標	増減
17,722	+3,129
2,925	+679
1,041 ^{※2}	+245
2,855 ^{※2}	▲649
10%以上	+1pt以上

※1：2019年3月期～2021年3月期の3ヶ年累計値
※2：2022年3月期～2024年3月期の3ヶ年累計値



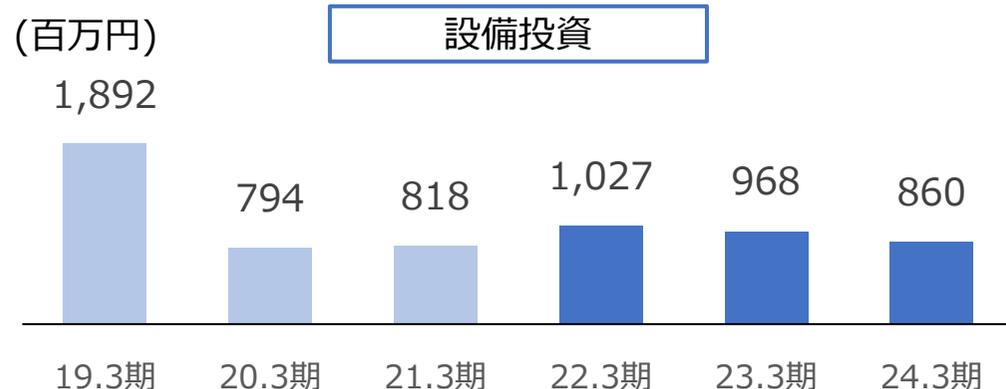


- 先端技術研修、経営層育成研究を中心に増額
 - ・ 外部教育サービスを活用した全社員を対象とするAI教育の実施
 - ・ 次世代経営層育成に向けた研修
 - ・ DX/ITセキュリティ等の担当者向け専門教育



- 採掘技術の開発をスピードアップ
- 成長領域での研究開発推進
 - ・ ファインケミカルを中心とした技術開発
 - ・ 産学官連携での新用途研究

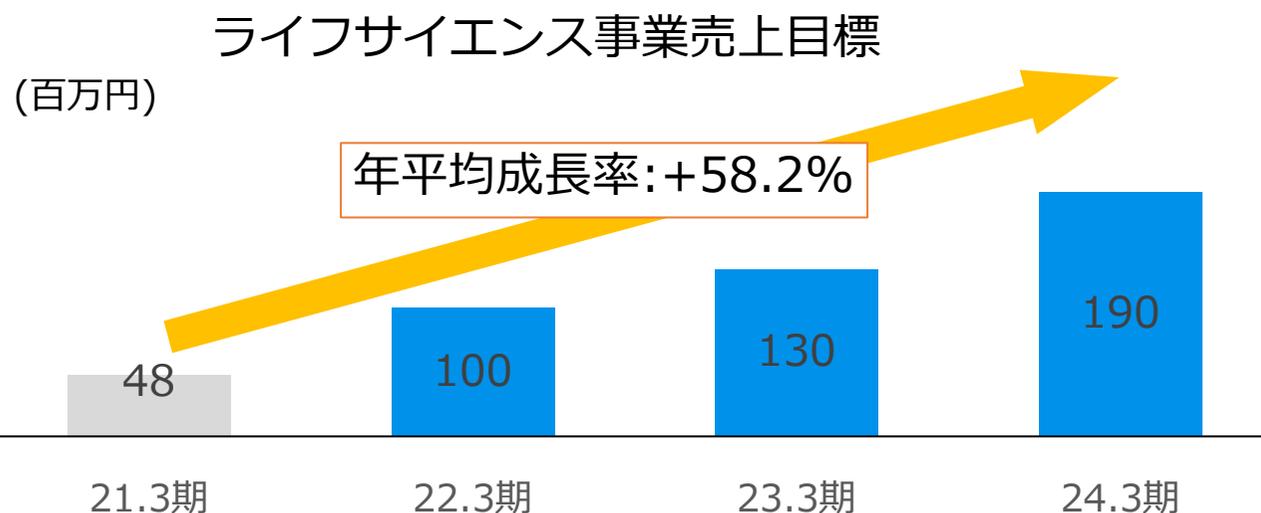
※資源開発費を含む

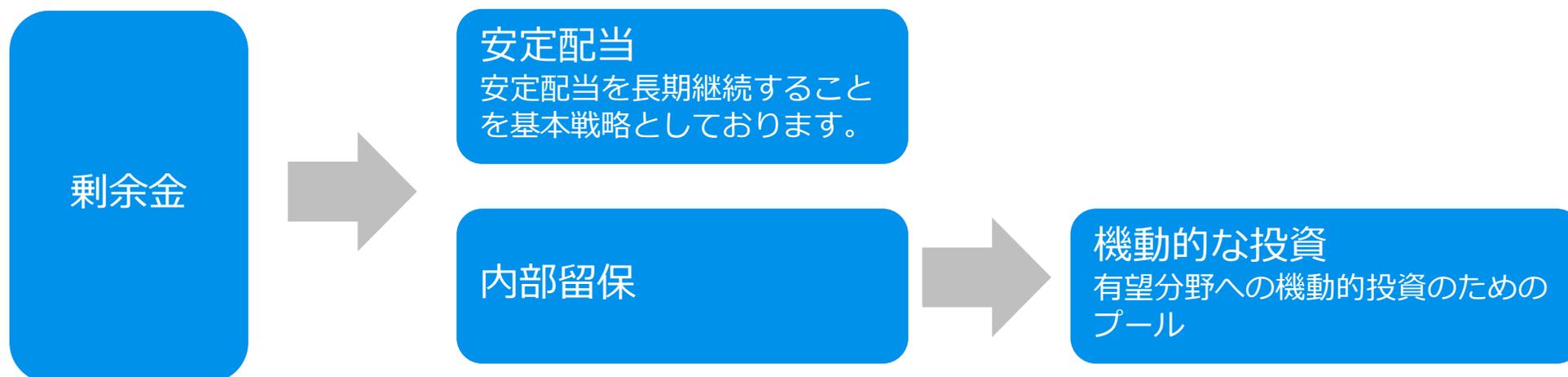


- 成長領域への設備投資強化
 - ・ 土木分野需要増に向けた生産設備の強化
 - ・ ガスバリア向け(クニピア)量産設備の導入
- 全拠点照明LED化

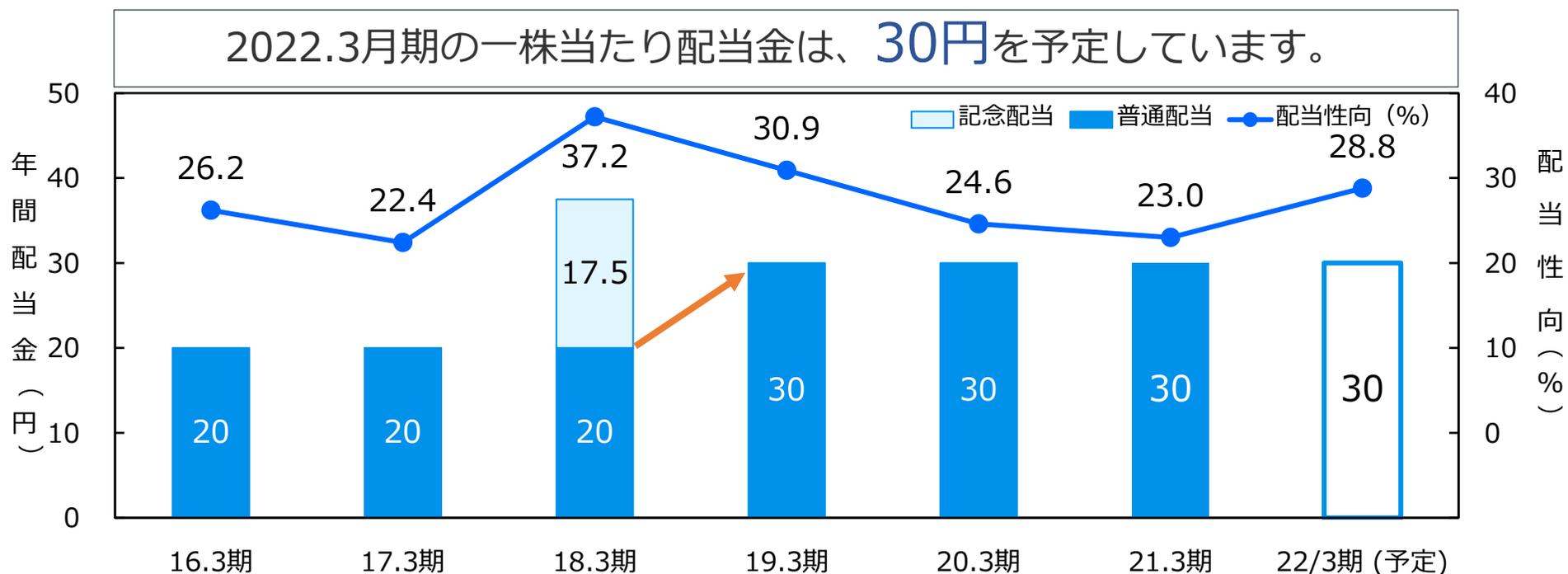
【ライフサイエンス事業】

- 21.3月期 売上実績：48百万円
 - 飼料添加物：畜産動物の病気予防などを目的として展開
 - ・ 産学官で連携した実証実験を行い効果を検証中
 - 食品添加物：ワインの澱取り剤として展開
 - ・ ベントナイトの特性を活用した新しい付加価値を追求
 - 土壌改良・水質浄化・動物医薬分野への応用も研究中
 - ・ 赤潮対策の水質浄化剤を2021年度に上市予定





持続的な企業価値向上に努め、配当性向30%を目途として株主へ安定的・継続的な利益還元を行ってまいります。



1 業績トピックス

2 2021年3月期 決算概要

3 2022年3月期 通期見通し

4 中期経営計画 振り返り

5 中期経営計画策定にあたっての考え方

6 新中期経営計画(2022年3月期-2024年3月期)

7 社会・環境への取組み

■ 当社グループにおける社会貢献の考え方

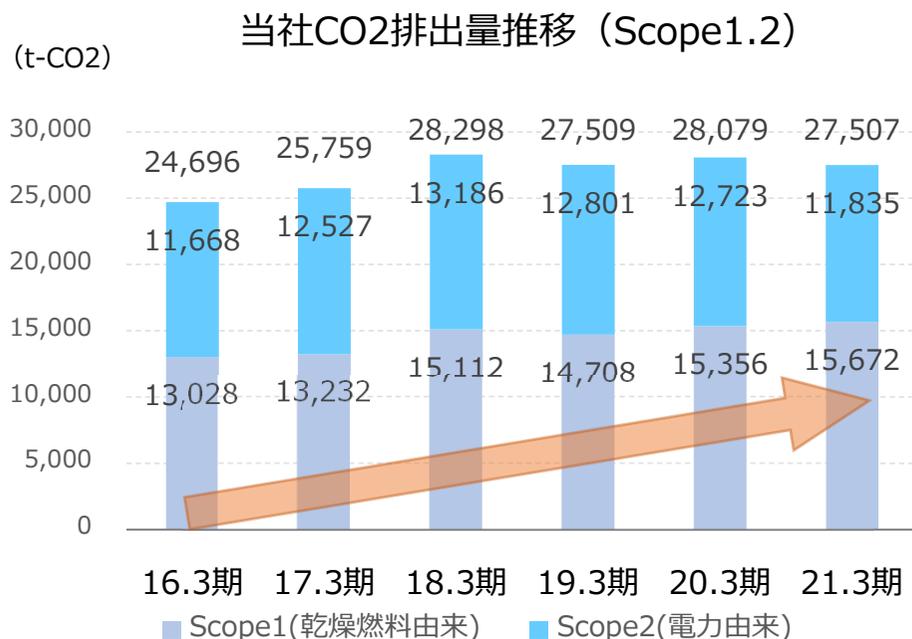
クニミネ工業グループは『経世済民』の経営理念を掲げ、貴重な地下資源であるベントナイトを中心に、高付加価値商品やサービスの展開により基幹産業を支え、国の繁栄に貢献してまいりました。

当社が中核事業として取り扱うベントナイトは、自然環境への負荷が少なく、生命体と環境にやさしい無機鉱物です。この貴重な資源を科学し、未来のニーズを創造することで、社会への価値を提供していきたいと考えています。

当社グループの技術を活用して、廃棄物処理などの社会課題の解決や、新たな産業を支援・創出していくことがESGへつながる取り組みと考えており、事業活動を通じて社会的な目標であるSDGsの達成を目指しております。

環境 (E)	社会 (S)	ガバナンス (G)
<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動問題対応 (土木部門) <ul style="list-style-type: none"> ⇒脱炭素事業…地熱発電 ⇒静脈産業…低レベル放射性廃棄物処理 ⇒自社CO2排出量削減 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="159 1171 327 1345"> <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>  </div> <div data-bbox="349 1171 517 1345"> <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>  </div> <div data-bbox="539 1171 707 1345"> <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 食料自給率向上 <ul style="list-style-type: none"> ⇒畜産養殖生産性向上 (ライフサイエンス部) ⇒農業生産性向上 (アグリ事業部) <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="842 1171 1010 1345"> <p>2 飢餓を ゼロに</p>  </div> <div data-bbox="1032 1171 1200 1345"> <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p>  </div> <div data-bbox="1223 1171 1391 1345"> <p>14 海の豊かさを 守ろう</p>  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 3分の1以上の社外取締役確保 ● コンプライアンス基本方針・規定、社員倫理行動規範の順守 ● 内部通報制度活用による不正行為早期発見 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1525 1171 1693 1345"> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  </div> <div data-bbox="1715 1171 1883 1345"> <p>16 平和と公正を すべての人に</p>  </div> </div>

CO2排出量の状況と今後の対応

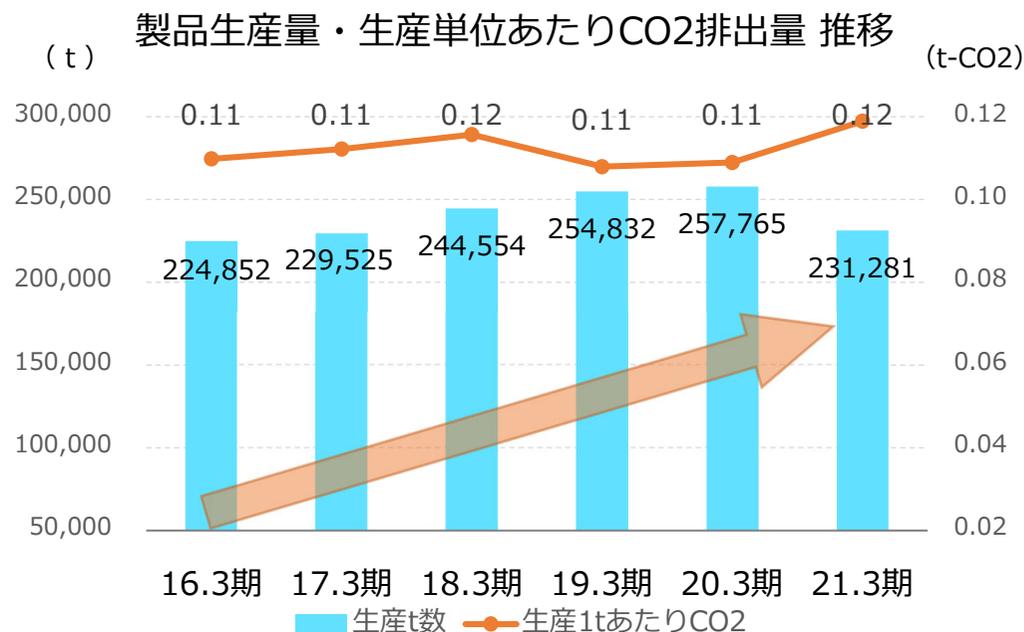


■ 当社グループCO2排出量の状況

- 当社グループのCO2排出量は、16.3期から上昇傾向が継続
- Scope2(電力由来)の排出量は約1.2万t-CO2/年前後で推移
- Scope1(乾燥燃料由来)の排出量が生産量に伴って増加し、CO2排出量増加の主要因となっている

* Scope 1 : 製造等での燃料使用によるCO2直接排出

* Scope 2 : 購入した電気の使用によるCO2間接排出



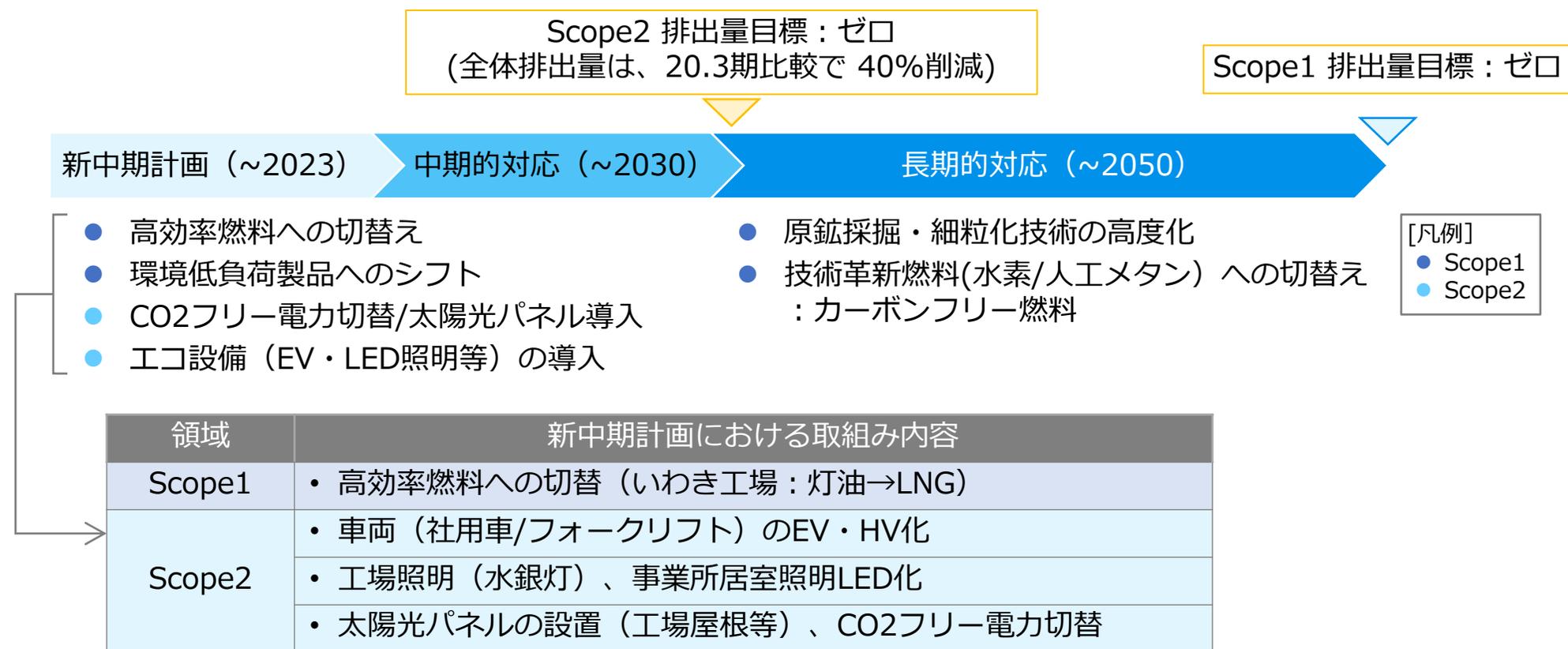
■ 今後の見通しと対応

- 当社製品の生産量は、需要の拡大に伴い増加傾向にあり(21.3期はコロナ影響で減少)、生産単位当たりのCO2排出量は横ばいで推移
- 今後も低レベル放射性廃棄物処理や国土強靱化等のニーズから生産量の増加を見込んでおり、生産におけるCO2排出への対策は急務
- 当社グループでも2050年のCO2排出量実質ゼロを目指し、次期中期計画では生産単位あたりCO2の削減を進め、CO2排出量増加の抑制を図る

※各数値は省エネ法に基づく定期報告値より作成

■ カーボンニュートラルに向けた中長期的対応

- 中期的な対応（～2030年）はCO2削減を重点課題とし、太陽光パネル・水力発電(小規模)・高効率燃焼設備・各種省エネ機器等のあらゆるエコ設備の導入を、可能な限り進めていく
- 長期的な対応（～2050年）では、Scope1のCO2削減に向け、原鉱の採掘段階から見直しを進めていく。具体的には原鉱の含水率低減を狙いとし、採掘技術・細粒化技術の高度な開発を進めることで製造工程の大幅な見直しを図る。加えてコストダウンも進め、競争力強化にもつなげていく

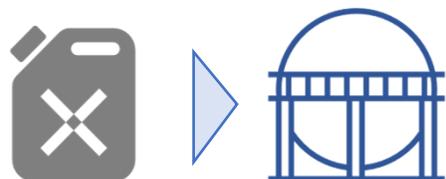


■ 新中期計画期間(～24.3期)における取組み内容

- 22.3期からの新中期計画では、生産単位あたりCO2の削減と、2030年のScope2 排出量目標：ゼロの達成に向け、エネルギーの代替・設備の導入を推進
- 具体的には24.3期までを目標に、以下の4つの取組み(①高効率燃料への切替、②車両のEV・HV化、③照明LED化、④発電設備導入)を進め、CO2排出量増加を抑制

①高効率燃料への切替(いわき工場：灯油→LNG)

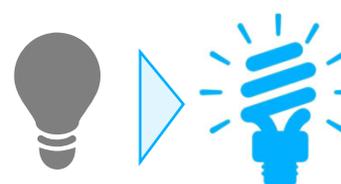
- 高純度品(クニピア・スメクトン等)の乾燥工程で使用する燃料を高効率のLNGに切替ることで、CO2排出量を削減



期待効果：
900t-CO2削減

③工場照明(水銀灯)、事業所居室照明LED化

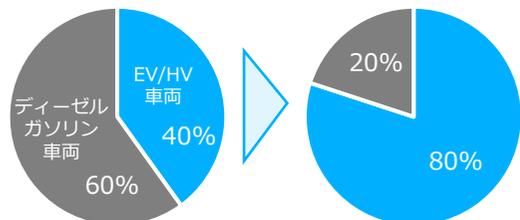
- 工場で使用されている水銀灯と、事業所居室の蛍光灯照明のLED化を推進



LED化目標：
50%(現状) →100%

②車両(社用車/フォークリフト)のEV・HV化

- 車両を現場環境(気候条件・敷地内傾斜)に応じて、EV・HV化を促進

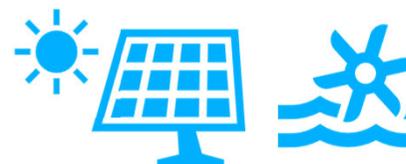


目標：80%
現場環境を加味した
最大値



④発電設備導入(太陽光パネル・小規模水力発電)

- 工場建屋への太陽光パネル設置を推進。日照・気候条件と建屋耐久性等から最適な方法を検討
- 工場近隣の河川・用水路での水力発電設備設置可否確認



各地区工場
の環境条件
を確認中

ご視聴ありがとうございました。

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

IRお問合せ先

<https://www.kunimine.co.jp/toiawase/ir.html>